

夏かき産地育成事業の取組状況について

1 要旨・目的

夏場に出荷できる産地を育成するため、県東部地区において生産技術を確立し、作業効率や利益率を高め、生産規模の拡大を推進する「夏かき産地育成事業」の令和4年度の成果がとりまとまったので報告する。

2 現状・背景

近年、オイスターバーやかき小屋など、新たなスタイルでかきを楽しむ食文化が生まれたことで、夏場の生食用かきの需要が高まっているが、中西部地区のかき生産・出荷時期は秋から春であり、夏場に生鮮かきを提供することができていなかった。

平成30年度から、東部地区において夏場に出荷できる三倍体かきの養殖を行っているが、規模拡大や品質向上といった課題があるため、東部海域に適した生産体制の確立に向けた取組を進めている。

3 事業概要

(1) 対象者

県東部地区の夏かき生産者（田島漁協、横島漁協）

(2) 事業内容（実施内容）

ア 県東部地区に適した夏かき生産技術の確立



耐久性の高い素材を使用した試験筏を環境の異なる海域に設置し、試験養殖を実施。

イ 夏かきの品質向上に向けた取組



既存の三倍体かきとは生産方法が異なる新たな三倍体かき種苗による試験生産を行い、倍化率及び身入りの改善を調査。

(3) スケジュール

—

(4) 予算（一部国庫）

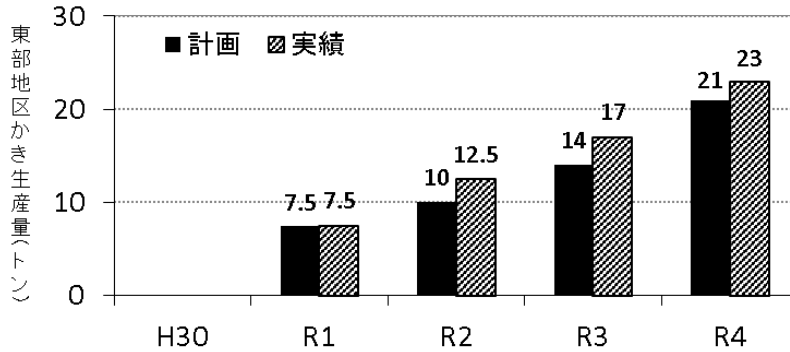
10,233 千円

(5) 事業効果・検証結果

ア 県東部地区に適した夏かき生産技術の確立

試験筏では、水深4mまでの垂下養殖を行っているが、養殖水深の違いによる成長や生残の差はなく、漁場を立体的に活用できることが確認できている。

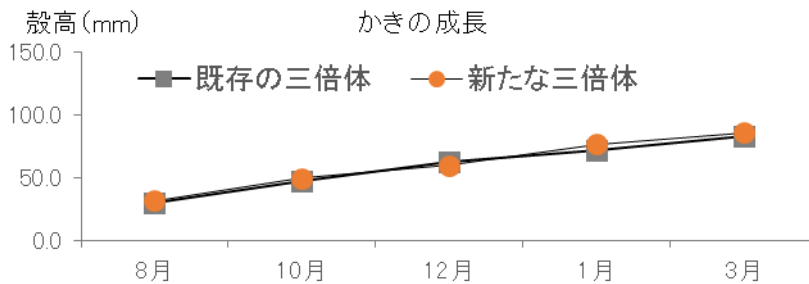
かきの生産量については、養殖筏を順次増やしていることと、クロダイによる食害防止ネットの設置などにより、計画以上の実績となっている。



イ 夏かきの品質向上に向けた取組

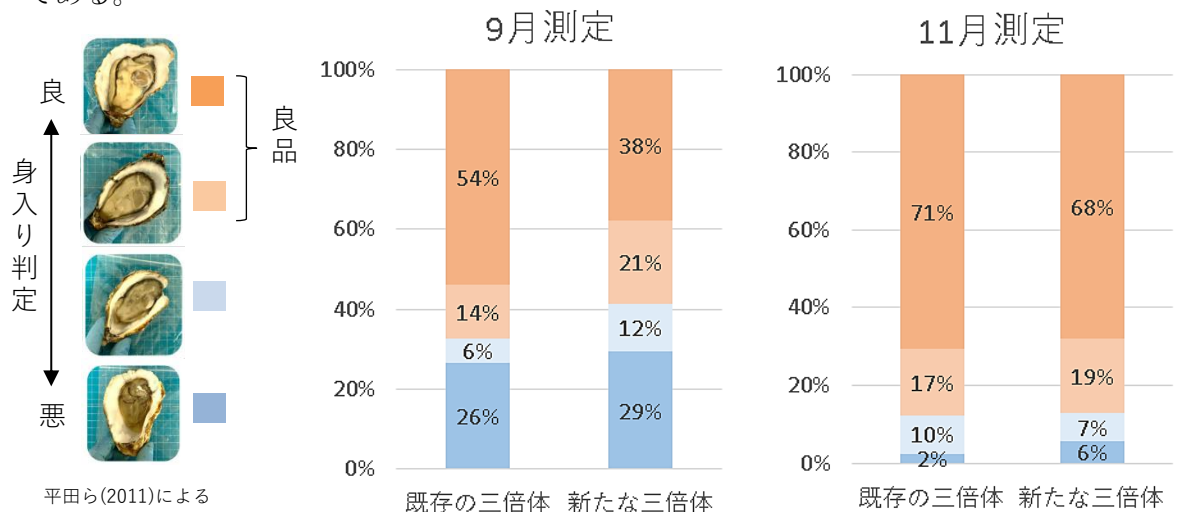
(ア) 倍化率及び育成状況

令和4年導入種苗の垂下時(令和4年7月)の倍化率は、既存の三倍体は73%、新たな三倍体は96%であり、前年結果と同様であった。また、令和5年3月末までの両者の殻の大きさ等を測定したところ、大きな差はなく、どちらも順調に成育していた。



(イ) 出荷時の身入り状況

令和3年導入種苗の出荷時期の身入り状況は、時期によってばらつきがあるものの、詳細な調査を行った令和4年9月時点では既存の三倍体の方がやや良好で、同年11月時点では両者に差はなかった。令和4年導入種苗の身入り状況については、現在調査中である。



(6) 今後の対応

本年6月から実施中の試験結果をとりまとめ、令和3年度から実施している「夏かき産地育成事業」の成果を総括し、東部地区に適した生産技術を確立するとともに、既存の三倍体と新たな三倍体の種苗特性を適切に評価し、収益性の高い夏かきの生産出荷体制を構築することにより、夏かき産地の形成を目指す。